



# SPELT

December 2020 Vol.9, No.1

実用英語教育学会

# NEWSLETTER

## 目次

巻頭言 実用英語教育学会 会長 釣 晴彦

### 第9回 実用英語教育学会(SPELT)研究会 報告

(2020年7月26日 zoomによるオンライン開催)

ビジョン 3-16: 2021年東京オリンピックと日本の英語教育  
—話す力の原点としての発音指導再訪—

#### 1. 《手・指で作る発音》 ワークショップ 第3弾

英語を聞く・話すための手と指で作る発音—Elementary Session Part 3—

講師 古田 <sup>のりたか</sup> 智隆 (ボイスワーク・トレーナー)

報告 実用英語教育学会 山崎秀樹・杉浦理恵

#### 2. お知らせ

- ・ 2月の研究大会について
- ・ 会員募集について
- ・ 編集後記

# 巻頭言

## 実用英語教育学会 第9回研究会を終えて

実用英語教育学会会長 釣 晴彦  
札幌学院大学人文学部 教授

実用英語教育学会第9回研究会のテーマは、「2021年東京オリンピックと日本の英語教育 - 話す力の原点としての発音指導再訪 -」です。オリンピックが1年延びて2021年になりましたが、まだ、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。その中7月26日に研究会を終えましたので、遅くなりましたが一言ご挨拶申し上げます。

今回の研究会は、新型コロナウイルスの感染拡大で、従来の対面式の研究会が難しいと判断したので、Zoomを使い研究会を開催する試みとなりました。初めての企画で、誰もが経験も無い大会でしたが、事前にスタッフでリハーサルをしたり、情報交換を密にして工夫したせいかスムーズな進行の中、29名もの方に参加して頂き大変有意義な研究会になりました。古田智隆さんの「手・指でつくる発音」の3度目のワークショップになります。今回は東京からZoomにての参加研究会でした。内容に関しては別紙に詳しくまとめられていますので、ご覧下さい。また、古田さんは、今までの実績を踏まえて正式なテキストを作られました。製本もされ、今後如何に古田メソッドを教育現場で実践して普及させていけるかが大きな鍵となってきました。

2020年4月から小学校外国語活動が始まりました。しかしこの新型コロナウイルス感染症対策として学校が臨時休校になったり、授業再開後も学校現場のクラスター発生でこの11月も危機的な混乱状況が続いています。予想以上に感染の期間が長く続いているために、事前準備をして始まった外国語教育は、想像以上に厳しい船出になりました。対面のコミュニケーション活動、歌やプレゼンテーションなど声を出す活動は、感染予防のためなるべく控えるように指導されています。ITを使った遠隔授業など情報量だけは膨大になりましたが、個人個人の活動や集団活動が規制されて、現場では非常に閉塞感が漂っています。こんな状況だからこそ、実用英語教育学会は小、中、高、大で教壇に立つ会員がもっと相互につながり、情報や手法を共有して、さまざまな領域と水準における英語教育の実践と研究を行い、共に学んで歩んで行きたいと考えております。皆様のご指導、ご支援を一層賜りますようお願い申し上げます。

## 第9回研究会 <ワークショップ>

### 《手・指で作る発音》 ワークショップ 第3弾

英語を聞く・話すための手と指で作る発音—Elementary Session Part 3—

講師 古田 <sup>のりたか</sup> 智隆 (ボイスワーク・トレーナー)

古田智隆 (のりたか) 先生に実用英語教育学会でご講演頂くのは3回目でした。これまでの2回で実際に手指を使って発音を表現することを体験し、参加者からは古田さんのご講演にまた是非参加したいという声が多数ありました。今回も実際に会話や発話の中で手指を使って音を視覚化し、表現しながら、大変楽しく学びの多い時間となりました。

古田先生のご講演内容の一部になりますが、ご紹介します。

#### 1. 「手で作る発音」とは

アルファベットの文字の音および発音記号は通常、口腔内のイラストで表示されますが、なかなか思った通りに口腔を動かして音を出すことが難しいものです。そこで、「できるだけ簡単に説明し、理解してもらえない方法はないものか」と考えていました。頭で理解してもうまく口腔内の器官が動かさなため、指導する相手に仕組みを理解してもらうために、発音をしながらその音を手で示す方法を紹介します。例えば、「ラリルレロ」を言いながら、舌の位置を自分で確認しながら理解します。

「手が器用に動きません」という方もいらっしゃるかもしれませんが、「手が動かないのではなく」、「(その音を表現する)舌が動いていないので、手も同様に動かない」と考えています。

手を使って視覚化・行動化することで、さらにきれいな発音をできるようになるという効果があります。今日は、もう一步踏み込んで、実際の単語や会話の中に手の動きを取り入れる方法も紹介します。

私は「あいうえお」の母音を基準とするのではなく、その前に一段階ある音を「素音(そいん)」と名付けました。つまり、言葉の素になる音「素音」です。赤ちゃんは、外部からの音を真似て複雑な音を出そうとしますが、私たち大人は、その真似する方法を教わったことがありません。そのため、「音をどう教えたらいいのか」という疑問から、手を使った方法を考案しました。

#### 2. 手で音を作る練習

最初に「ミトン」の形(親指とほか四本指を離す)にして、曲げるか伸ばすかを発音しながらやってみます。音を聞きながら、手の動きをつけると、より意識するようになり、実践的に学べるようになります。例えば、allはaの音を出す間にlの準備をすべく舌は動いているはずですが、それを指で示すのです。素音の概念、曖昧な音を基に、舌や口内を動かすことで様々な音が出せるようになっていきます。色で示したり、手の動きをつけたりすると動きがわかり、自然にグラデーションの部分を出せるように、あるいは聞こえるようになってきます。青とオレンジの紙を用い、青い方を子音、オレンジの紙を母音とするなど視覚的に意識できるような方法を紹介します。

例えば、number の発音をしてみます（写真1）。上がアルファベット、下が音声記号だとします。カタカナの場合は「なんばあー」となりますが、mからbの三角形で重なっている箇所（濃いオレンジ色）が、ポイントです（写真2）。このようにmからbに移行するような音の変化を、つまり、色が交差する部分をどう発音すればよいのか、というところを今回実践してみます。

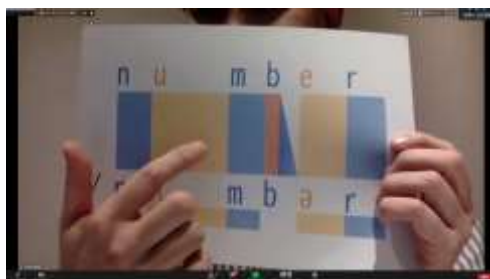


写真1



写真2

図の中で、uと言っている間にmの音を作ります。同様にe rの部分の交差する部分ではeの音の次にrの準備をします（写真3）。基本は音が重なり合っている部分が実は多く、その交差の音の部分がわかりにくい箇所です。



写真3

日本語ですと、nとuがはっきり分離していると通常理解しています。そこに日本語と英語の発音の違いがあります。日本語で言う「ナンバー」は、音と音の間がはっきりしているということが、今日のポイントです。図示された説明や表示では理解しがたいため、実際の発音や発話の音の状態を、手で示してみます。これまでの知識や方法論をいったんクリアにして実践してください。

英語では、交差している部分、例えば、mの部分は手を開き、握ります（写真4）。指の動きは親指を中指の関節あたりにつけてmの音とします（写真5）。



写真4



写真5

このmが動いている間の部分が、青い紙の三角の形で増える部分です（写真6）。折れ線が入るまでの部分が、指でmの指で表示している部分で「あー」という間にmを指で示します（写真7）。「あー」の時に親指の先を中指に擦り付けて動かす部分の音を、この交差している部分で表して指と発声で示します。例えば、LやRの音を実際に出せ、と生徒に指示してもなかなかできないのが現状ですので、日本語話者ならば、英語の音の舌の動きを手を使って学んでみてはどうかと思います。



写真6



写真7

例えば、Rの音は舌の奥の方を持ち上げるので、手を上に向けて示します（写真8）。実際は手首を上げることで、舌の奥を上げるイメージです。平らな所から、手首を上げて、曲げ、自分の舌の奥を持ち上げるイメージを作りながら、発音します。



写真8

徐々に指を動かしながら、スピード調整します。歌の場合はゆっくり発音するイメージで指の輪をゆっくり作るように、親指を滑らせると表現が多様になります。ゆっくり強調したいこと、気持ちを込めるなどもこの方法で示します。このような手の動きは覚えるまで補助的に使うもので、その音を出せるようになればもう必要はありません。手を動かすことができるようになると、舌が動くようになり、従うようになります。

### 3. 「手で作る発音」の修得

おおよそ覚えた方法を、具体的に使えるようにしていきましょう。少しずつ段階的に許容範囲を広げていくのです。多様な音や発音に慣れていくことが肝要です。誰かの発音やその声に慣れるのではなく、この仕組みや音に慣れていくことが大事です。2か月くらいあればパターンは覚えられますので、ゆるく学んでいき、ざっくり覚えて磨き上げていきましょう。

.....  
参加者からのコメントや質問にも、古田先生がご回答くださいました。

参加者： 指や手で示すと、発音するときも変化を意識するようになると思いました。

古田先生： うまくいかない方は、眉毛が上がっていなかったり、手を意識しすぎて顔が下がったりしていることが多いのです。顔の器官や表情を作るときの筋肉の可動域を増やすことが有効です。

参加者： 小学生に指導するときに、示すことはできますが、それができているかどうかを確かめる事が出来ません。

古田先生： 評価しなくてもよいので、学習者が真似する道具をまず覚えてもらいます。そのあと経験的に学習者は学んでいくので、この仕組みや方法を実践してもらいながら示してやるとよいでしょう。子どもたちのリアクションは早いと思います。教員が判断、評価するということを取りあえず忘れてはどうでしょうか。手で示していると、手を動かすことに熱心になってしまうので、それよりも舌を動かす方法を意識してもらい、真似していくことに時間を使ってはどうでしょうか。真似してもらうための道具を得てもらうのがポイントです。

#### ◆研究大会について

2021年2月14日(日)に予定しております研究大会の詳細につきましては、後日あらためてお知らせいたします。

#### ◆会員募集について

実用英語教育学会では、新会員を募集しております。年会費は4,000円です。会員の皆様は、研究会や大会の参加費が無料になるほか、口頭発表および論文発表の発表資格を得ることができます。

#### 編集後記

2020年は、これまで経験したことのない1年を過ごしたような気がしております。教育界も年間スケジュールが大幅に変更となり、毎年恒例だった行事がいくつも中止、または規模の縮小を余儀なくされました。また、遠隔授業やオンライン会議が一気に注目を集め、企画する側も参加する側も慣れるまでが大変な毎日でした。7月の研究会では、SPELTも初めてのオンライン開催を経験しました。オンラインだからこそ遠方の方も参加しやすいというメリットもありますが、直に参加者の方とやりとりをしたい欲求も拭えません。テクノロジーの恩恵に感謝しつつ、このような状況下でも「学びを止めない」という気持ちで真摯に教育に関わっていきたいと思っております。皆様、どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

(文責：三浦)

実用英語教育学会

編集: *SPELT Newsletter* 編集委員 (三浦寛子・山崎秀樹)

発行: 2020年12月10日

事務局: 〒065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 石川希美 研究室内

TEL: 011-742-1651(直通) Fax: 011-742-1654(代)

Email: [spelt.info@gmail.com](mailto:spelt.info@gmail.com)